

育成すべき資質・能力の 三つの柱	大泉の 自主・自律・創造	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識・技能 何を理解しているか 何ができるか	興味関心をもち、 課題を発見する力	情報について興味関心をもちることができない。	情報について限られたことには興味関心をもちることができる。	情報について広く興味関心をもち、課題を発見することができる。	情報の幅広い分野に興味関心をもち、意欲的に課題を発見することができる。	情報の幅広い分野に興味関心をもち、課題の本質を発見し続けることができる。
	自分の可能性を信じ、 やり抜く力	自分の可能性を信じることが出来ず、情報の演習に取り組むことができない。	自分の可能性を信じ、情報の演習に取り組むことができる。	自分の可能性を信じ、情報の演習を最後までやり抜くことができる。	自分の可能性を信じ、情報の演習を計画的にやり抜くことができる。	どんなときも自分の可能性を信じ、あらゆる情報の演習を計画的にやり抜くことができる。
	挑戦する力	情報に授業で与えられた課題に対して挑戦することができない。	情報の授業で与えられた課題に対して、挑戦しようとするすることができる。	情報の授業で与えられた課題に対して、前向きに挑戦することができる。	情報の授業で与えられた課題のほかにも、自ら課題を発見し、挑戦することができる。	情報の授業で与えられた課題のほかにも、自ら発見した複数の課題に対して、挑戦し続けることができる。
思考力・判断力・表現力等 理解していること・できることを どう使うか	解決に向けて 論理的に思考する力	情報技術を用いた課題の解決に向けて、自分で考えることができない。	情報技術を用いた課題の解決に向けて、自分で考えることができる。	情報技術を用いた課題の解決に向けて、筋道を立てて思考できる。	情報技術を用いた課題の解決に向けて、客観的根拠を示して筋道を立てて思考できる。	情報技術を用いた課題の解決に向けて、客観的根拠を示しつつ多角的な視点で筋道を立てて思考できる。
	自他の違いを認め、 思いやる力	情報社会における自分の考え方や生き方を認めることができない。	情報社会における自分の考え方や生き方を認めることができる。	情報社会における他者の考え方や生き方を認めることができる。	情報社会における自他の考え方や生き方を尊重することができる。	情報社会における多様性のあるべき姿について、考えることができる。
	学びを実践に移す力	情報でのさまざまな学びを他者に伝えることができない。	情報でのさまざまな学びを他者に伝えることができる。	情報でのさまざまな学びを他者に伝えて、理解してもらうことができる。	情報でのさまざまな学びを実生活や実社会で生かす方法を考えることができる。	情報でのさまざまな学びを生かして実生活や実社会に向けてアクションを起こすことができる。
学びに向かう力・人間性等 どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか	自ら学びを継続する力	情報技術について、意欲的に学ぼうとすることができない。	情報技術について、意欲的に学ぶことができる。	情報技術について意欲的に学び、その学びを継続することができる。	情報技術についてのどのようなことに対しても意欲的に学び、その学びを継続することができる。	情報技術についての自身の意欲的な学びを通して、集団に良い影響を与えることができる。
	多様な人々と協働する力	情報の演習において多様な人々と行動を共にすることができない。	情報の演習において多様な人々と行動を共にすることができる。	情報の演習において多様な人々と協力しながら、行動をとることができる。	情報の演習において多様な人々と協力しながら、課題解決をすることができる。	情報の演習において自己を含めた多様な人々の中心になって、課題解決をすることができる。
	自己実現に向かう力	これからの情報社会で自分のなりたい姿を思い描くことができない。	これからの情報社会で自分のなりたい姿を思い描くことができる。	これからの情報社会で自分のなりたい姿を具体的に思い描くことができる。	これからの情報社会で自分のなりたい姿に向けて、必要なことを理解することができる。	これからの情報社会で自分のなりたい姿の実現に向けて、努力を重ねることができる。